

第1章 現状認識

①日本の幸福度の低さ



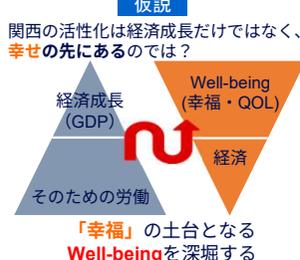
人は「経済的余裕」に加え「ひとりじゃない」「つながり」を感じられる方がより「幸せ」を感じる

②幸福とWell-beingの関係



「幸福」とは3つのWell-beingが健全に機能し満たされると感じる結果

③Well-beingへの着目



第2章 関西の活性化の定義と本提言が目指す姿

①社会的Well-beingの重要性

生活満足度は3種類のWell-beingに関する指標で評価されるが、**社会的Well-beingのスコアが最も低い**



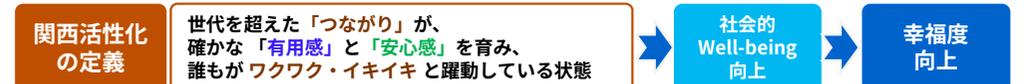
社会的Well-beingとは
社会の中でうまく機能しているか？ 関わりにおいて幸福を感じているか？
社会的有用感 私は社会の役に立っているか？
社会的安心感 私は社会に受け入れられているか？
人と人の**つながり**で実感

②各世代の役割・課題と理想のつながり

世代を超えた人の**つながり**が課題解決と社会的Well-being向上に寄与！



③関西活性化の定義



家庭や学校の役割に縛られない「サードプレイス」が、地域コミュニティで人とつながる場所になる！

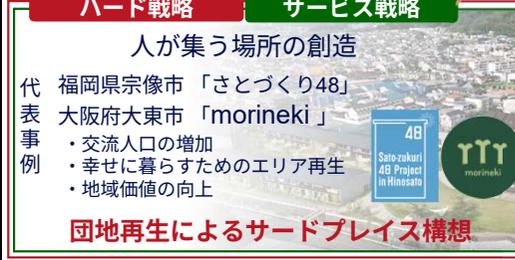
④「つながり強化戦略」の方向性

関西人のおせっかいで明るい気質は、関西の活性化を果たすうえで欠かすことのできない資本！
世代を超えた人と人の**接点機会**と**サードプレイスの創出**により社会的Well-beingの最大化に繋げる！

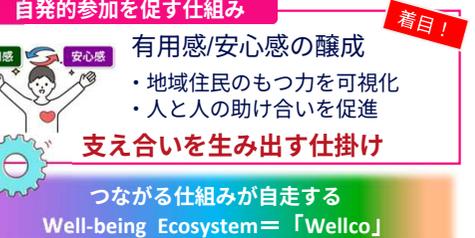
調査	関西のSWOT分析	検討	つながり強化戦略	提言	本提言の方向性
Strengths (強み)	<p>関西人気質 ・「おせっかい文化」 ・「コミュニケーション力」 ・「ユアエリア」がある</p>	<p>機会 おうち時間増加 ・リモートワークの普及 ・働き方改革の普及</p>	<p>強み × 脅威 「関西人気質 × 孤立しやすい環境」 「地域住民間の接点機会」を生み出すサービス・仕掛けの創出</p>	<p>サービス戦略 支え合いを生み出す仕掛け 人がつながりやすくなるツール</p>	<p>安心感 有用感</p>
Weaknesses (弱み)	<p>Threats (脅威) 人口減少・建物老朽化 ・60年以上に整備されたニュータウン ・空き家の増加</p>	<p>脅威 × 機会 「サードプレイスの充実」による地域コミュニティの「つながり喚起」</p>	<p>ハード戦略 サードプレイスの創出 人が住みたい、訪れたい場所</p>		

第3章 関西の活性化に向けた施策

①「つながり」持続化戦略と仕組み



地域コミュニティを継続する持続力が必要



②つながる仕組みが自走するエコシステム「Wellco」

ハード施策 自発力を促す仕組み サービス施策 自発力を促す仕組み

yottette 人が集まり、つながる場
住民が集まり、つながるコミュニティ機能を集積
サービス例
・レストラン・多目的室
・コミュニティナース
・エディブルガーデン etc
地域・全世代の人々が集まるサードプレイス

tayotte つながりと支え合いの潤滑油
「感謝」の見える化によるコミュニケーションの促進
人材バンクシステム「tayotte-San」
感謝の気持ちを育む「tayotte-Point」

「yottette」と「tayotte」の基盤機能から自走するWell-being施策への期待

バディ制度	生活支援	子供の見守	サードオピニオン
【若者】×【シニア】 高齢者見守り デジタル支援	【子育て】×【シニア】 買物代行 病院付添	【アクティブシニア】×【子育て】 一次預かり 人脈の橋渡し	【シニア】×【若者】 伝統の承継 防犯パトロール
世代間の「役割」			
湧く 知識/技術の継承 新しい価値観の導入	沸く 時間に余裕が生まれる 孤立した育児・介護の解消 心理的ストレスの緩和	活き 若い世代の育成 知識/人脈の継承 コミュニティの調整役	生き 文化・道徳・歴史の伝承 社会の「重石」
“つながり”におけるメリット			
コミュニティの広範囲化 身近なロールモデル	仕事関係以外の繋がり の創出 地域活動への参加時間増加	新たなコミュニティ（地域社会） への参加	身体的制限による困難の緩和 情報格差の是正

Wellcoが生み出すWell-being向上の好循環

第4章 総括

